

題字の写真は、拓殖大学馬術部で飼育されている最古参の馬「ベルディー15歳」です。毎週木曜日散歩でニンジンをあげます。日本では馬は人参と決まっていますが、本当は黒砂糖やリンゴなどが好物です。但し、イモ類はお腹にガスがたまるので食べさせません。学生さんたちが厩舎を掃除したり餌をあげたり、私たちの相手もしてくれます。

# 紅葉台



# 新聞

第228号  
2026年  
4月4日  
発行人：関谷 孝

## 人と働く 日本在来馬

日本在来馬とは古くから日本にいる馬種。洋種馬などの外来種と交配することなく現在まで日本で残ってきた馬種で合計8種類。(北海道和種・木曾馬・野間馬・御崎馬・対州馬・トカラ馬・宮古馬・与那国馬) 今年「午年」なので人と共に働いてきた日本の馬を紹介します。(参考：馬の豆知識より)

1. **北海道和種(道産子)** 北海道和種は北海道を中心に飼育されている品種で道産子(どさんこ)の俗称でも親しまれている。頭数は約1800頭で日本在来馬の約75%。江戸時代に夏の間に使役のために南部から連れてきた馬が冬の間そのまま北海道に放置され、北海道の気候風土に適応するようになったのが先祖だと言われている。北海道の厳しい寒さの中で鍛えられた丈夫な体質、原野を走り回る強靱な体力を兼ね備えており200kg近くの荷物を運ぶことができる。

2. **木曾馬**は長野県の木曾地域や岐阜県の飛騨地方を中心に飼育され長野県の天然記念物に指定。日本在来種の中では中型に属し、体幅が広く胴長短足で、性格はおとなしく人懐っこい馬が多い。木曾馬はお腹がポコッと出ているのが特徴。これは他の馬種よりも盲腸が平均して30cmほど長く、太さも2倍ほどあることが要因。その為、粗食で草だけでも生きていくことができる。また、山間部で飼育されていた為に足腰が強靱で丈夫で、蹄も固いので軽い運動程度なら蹄鉄を打たなくても大丈夫。

3. **野間馬**は野間(愛媛県今治市)で主に飼育されており、今治市の天然記念物に指定。江戸時代には農耕や荷物の運搬などに使われ、約300頭までに増えた。頑強で粗食にも耐え70kgぐらいの荷物なら蹄鉄を履かなくても運べるために生産が進められていた。しかし、明治時代に入ると頭数が激減し、一時は絶滅寸前に。最近になり野間馬保存会が結成されたのをきっかけに増産が進められ、現在は80頭ほどにまで増えている。

4. **御崎馬(みさきうま)**は宮崎県串間市の都井岬に生息し、国の天然記念物に指定。今から約2000年も昔の縄文時代後期から弥生時代中期にかけて中国大陸から導入された馬が起源と言われている。体形はがっちりとしていて頭部は大きいのが特徴。農耕馬として飼育された他の日本在来馬と比較すると脚が細いのが特徴。牧場が都井岬に開設されて以来、300年以上もの間に人の手をほとんど加えない管理方法で一年中を通して放牧されている周年放牧という飼育方法。斜面が多い都井岬の環境に適した発達した後躯を持ち、また粗食に耐えるなどの特徴を持っている。現在は約100頭の自然繁殖集団として維持され、人間の手はほとんど加えないため、例えば御崎馬が死んでも特に埋葬などはせずにそのまま自然に放置しておき土に還るようにされている。

5. **対州馬**は長崎県対馬市を中心に飼育されてきた日本在来馬。

対州馬は「たいしゅうば」と読まれることが多いですが、地元である対州馬では「たいしゅうま」とも呼ばれ、また「対馬馬つしまうま」と呼ばれることも多い。他の日本在来馬と同じく、おとなしい性格で粗食にも耐え、また剛健で蹄が固く装蹄を行わなくても重い荷物を運ぶことができることから昔は農耕や木材、農作物、日用品などの運搬用の馬として活躍。対州馬は坂道が多く、坂道の上るのに適した側対歩(速歩の時に右側の前後肢がペアに、左側の前後肢がペアになる歩法)を調教しなくても自然に覚えるので坂道を苦しめません。頭数は30頭以下と少なく、絶滅が危惧されているため、対州馬保存会が結成された。

6. **トカラ馬**は鹿児島県のトカラ列島(鹿児島郡十島村)で飼育されてきた品種で鹿児島県の天然記念物に指定。屋久島と奄美大島の間にある12の島々がトカラ列島で7つの島には人が住んでいるが、残りの5つの島は無人島です。トカラ馬は1952年に鹿児島大学の林田重幸教授によってトカラ列島最南端の宝島で確認され、日本固有の純粋種として紹介されるまで全く世間に知られていない存在でした。奄美群島の北東にある喜界島からサトウキビ栽培のための労力として宝島にやってきました。暑さに強く、農耕や運搬などに使われてきたが現在は、人の手をあまりかけずに昼も夜も年間を通して放牧されている。

7. **宮古馬**は沖縄県宮古島で飼育されている日本在来馬で沖縄県の天然記念物に指定。宮古馬の頭数は少なく、現在はおよそ40頭。沖縄では昔から小型馬が飼育されており、この馬は中国から伝わったという説と朝鮮半島の馬が九州を経て伝わったという説がある。性格はおとなしく、人によく懐き、また丈夫で蹄が堅いためサンゴ石の道路や表土の薄いサトウキビ畑での農耕に適しており、粗食や重労働に耐えることから明治時代に宮古島でサトウキビの栽培が始められると宮古馬が農耕に活躍した。

8. **与那国馬**は沖縄県の与那国島で飼育されている日本在来馬で与那国町の天然記念物に指定。日本最西端の離島である与那国島に生息しているために品種改良や他の品種との交配が行われることなく与那国馬独自の系統が保たれてきた。性格はおとなしく人懐っこいので宮古馬と同様に沖縄の伝統的な競技である琉球競馬に使われていた。昔は農耕馬としても使われていたが、今は主に乗馬用や観光用に使われている。

サラブレッドと日本在来種の大きさ比較



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。

題字の写真は、拓殖大学馬術部で飼育されている最古参の馬「ベルディー15歳」です。毎週木曜日散歩でニンジン等をあげます。日本では馬は人参と決まっていますが、本当は黒砂糖やリンゴなどが好物です。但し、イモ類はお腹にガスがたまるので食べさせません。学生さんたちが厩舎を掃除したり餌をあげたり、私たちの相手もしてくれます。



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。